

白浜レスキューネットワーク通信 6月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

http://srnw.or.jp

e-mail yabiumi@gmail.com

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

6月1日～6月30日

電話件数 243件

メール相談 4人

保護件数 2件(男性2名)

帰宅件数 1件(男性1名)

○2日、男性を保護。滞在しやり直すことに。

○23日、男性を保護。大阪へ帰ることに。

生活自立支援活動

6月1日～6月30日

滞在者数 14人(男性11人、女性3人)

○昨年10月に保護した80代女性は、白浜に来て良かったと思い始めたようだ。

○高卒卒業資格を取ろうとしている20代男性は、午前中まちなかと農業、梅とりのバイト。午後から高校の勉強という生活を頑張った。

○コンビニとまちなかキッチンで働く20代女性は、大きな問題なくこの一カ月を過ごした。

○デイサービスに週3回行き、ヘルパーがほぼ毎日入っている80歳の男性は、4月に召天した女性のことので寂しい思いをしていたが、「自分は長生きします」と、生きることに前向きな発言が出て来た。

○まちなかキッチンで訓練を受けている30代男性は、自分が嫌だなどと思ったことを相手に伝え話し合うことよりも、離れることを選ぶ。それではだめなので、間に入って正しい方法で解決していくことを一緒に取り組んだ。

○もうすぐ共同生活4年になる、まちなかキッチンで訓練を受けている男性は、自分の課題もちろんだが、チーム全体の課題にどう取り組むかなど考えるようになった。

○共同生活に加わって一年経った女性は、自分は何をするのも楽しんではいけないと思っている。しかし、いつも明るく笑うようになってきた。何か心の中に変化が出て来ていると思う。
 ○リハビリに行き始めた男性は、少しずつ気持ちが前向きになっている。ガレージや白浜荘一階の部屋の片づけを任せた。とてもセンス良く、きれいに片づけた。

○今年2月から、ホテルで働き始めた40代の男性は、営業自粛で自宅待機となったため、梅とりのバイトに行った。

○昨年10月に近所のアパートに引っ越してきた女性は、ここから出て行くという話になったが、思い直して留まることになった。ここ以外に、課題が分かったうえで、受け入れてもらえるところはないと話した。

○明誠高校和歌山白浜SHIPの生徒となった高校生は、午前中は農業、梅取りのバイト、午後は高校とメリハリのある生活を送った。

○今月から共同生活に加わった男性は、人と接するのが苦手。また、とても独り言が多く、それも否定的な言葉の大きな声での独り言なので、周りは受け入れるのに苦労している。農作業に加えた。

自殺予防活動

・相談電話

6日、13日、20日、27日と行なった。今月も1人の相談員が休まず電話相談にあたった。

*コロナウイルスの感染予防のため、以下の活動を自粛。

・放課後クラブ ・コペルくん ・夜コペ
 ・はじめ人間自然塾 ・少年少女漂流隊